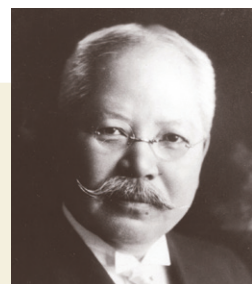


お知らせ
Information

NPO法人 高峰譲吉博士研究会

高峰 譲吉 博士

幕末、明治、大正の激動の時代を生きた高峰譲吉博士は、科学者として、事業家として、国際親善外交を通じて、大きな足跡を残しました。「タカジアスターゼ」を中心とした微生物由来のデンプン分解酵素の研究・開発により「近代バイオテクノロジーの父」と呼ばれています。



写真提供：金沢ふるさと偉人館

NPO法人高峰譲吉博士研究会

NPO法人高峰譲吉博士研究会は、近代日本における科学技術発展とその事業化、日米親善などに多大な貢献をした高峰博士をより多くの方に知っていただくために、機関誌発行・講演会実施などの啓蒙活動を中心に活動を展開しています。

主な活動

2024年度は、関東・中部・北陸地方にまたがる各地での講演会開催、ムック本「高峰譲吉がわかる」(毎日出版社)の出版、そして、NHKの歴史トーク番組では高峰博士がテーマに選出され、年間を通して多くの方に「高峰譲吉」に触れていただきました。高峰博士が取り上げられる機会が着実に増えており、今年度も引き続き、正確な情報提供と啓蒙活動を進めてまいります。

トピック 日米をつなぐ功績

ワシントンD.C.のポトマック河畔にある桜の歴史を伝えるパネルには、高峰博士や桜寄贈計画に関わる日米の人物たちが紹介されています。長年の風雨にさらされ劣化していたパネルは、日米両国の迅速な連携によりわずか半年で修復され、2024年の春から再びその歴史を鮮やかに伝えています。

さらに、同年5月には高峰博士が全米発明家殿堂入りを果たしました。これは米国特許商標庁がスポンサーを務める非営利団体が偉大な発明家を顕彰するもので、アドレナリンの抽出やタカジアスターゼの発明による医療・産業への貢献、そして日米友好への尽力が評価されました。百年を経てなお現代の米国で注目され、その偉業が称えられる姿に、日本人として感慨深く、誇らしい気持ちを抱きます。



高岡市内の中学校での講演活動。年に一校ですが、足掛け16年になります。



写真の人物は左から、桜植樹計画の発案者であるエリザ・シドモア、植物学者のデビッド・フェアチャイルド、東京市長の尾崎行雄、高峰譲吉



この選出は存命者ばかりではなく、歴史上の発明家も選ばれており、トーマス・エジソンやニコラ・テスラ、スティーブ・ジョブズなども殿堂入りしています。

QRコードをスマホのカメラで読み込んで頂くと、研究会HPに移動できます。



新規会員募集のお知らせ

当研究会では趣旨にご賛同いただける方を広く募集しております。

会員の皆さまには高峰博士関連出版物や定期発行の機関誌をお届けするとともに、各種講演会や催し案内、新たに得られた情報を提供しています。

入会ご希望の方は、氏名(法人の場合は会社名・部署名)、郵便番号、住所、電話番号(携帯電話はご遠慮ください)、ご職業、年齢、性別を明記の上、ハガキもしくは封書にてお申し込みください。折り返し、入会金・年会費振込用紙等をお送りいたします。

宛先

NPO法人 高峰譲吉博士研究会 事務局

〒105-0001

東京都港区虎ノ門 1-15-11

第二名和ビル5階

※詳細はHPでもご確認いただけます。

<https://npo-takamine.org/membership/>